

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-134	高等学校	外国語	英語表現 I	1
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
177 増進堂	英 I 334	MAINSTREAM English Expression I Second Edition		

1. 編修の趣旨及び留意点

教育基本法第一章「教育の目的及び理念」の第一条「教育の目的」、第二条「教育の目標」、および高等学校学習指導要領第2章 第8節「外国語」の第1款「目標」を実現するために、次のことがらが可能になるように編修することを基本とした。

- ①日本人、世界市民として21世紀に生きるうえでのコミュニケーション力（特に表現力）の基礎を築くこと。
- ②知識・理解にとどまらず、技能の習得・定着を図り、考え表現する力を伸ばすこと。
- ③わかりやすく学習しやすい素材と手順・方法を提供することにより、学習への意欲や英語への興味・関心を高めること。

2. 編修の基本方針

上記の趣旨を踏まえ、次の7点を基本方針とした。

- ①生徒がさまざまな話題について学ぶことができるように、バランスよく話題の選択をすること。そのために、身近な日常生活から始めて、学校、地域・社会、世界というように扱う範囲を広げるように配慮した。
- ②さまざまな話題を扱うために必要な語彙・表現を提示すること。そのために、Word Bank, Expressions, For More Useなどの欄を設けて生徒の言語活動を補助できるようにしてある。
- ③知る→考える→表現するという手順を踏まえながら、知識や理解したことを運用できるように持っていくこと。「知った」ことからは「使う」ことで定着する(intake)という考えに基づき、学習したことを生徒自身が使えるような練習を用意し、考えたり表現したりできるようにしてある。
- ④大きな枠組みとして、まずは音声を重視する内容から始め、文字を重視する活動へつなげていくこと。主として「話すこと」と「書くこと」を目的としている科目であるものの、学習指導要領の「内容の取り扱い」にもあるように、「聞くこと」や「読むこと」と関連させて指導するようにしてある。
- ⑤コミュニケーションをする必然性のある状況設定をし、生徒の学習への動機付けを高めるような活動を用意することで、より積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること。「状況」は「場面」に限らず、話したり書いたりする「形式」(プレゼンテーション、新聞への投稿文、等)といったことも含めて配慮してある。
- ⑥各課において、最終的にはきちんとした文章を「書く」ことを目指すこと。そのために各課で「表現するための文法」を学習・練習できるように構成した。
- ⑦さまざまな生徒や教員に対応できるように、教科書・付属教材等とともに工夫を施すこと。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
Lesson 3	美穂が祖母にもらったペンケースを大切にしている、というエピソードから、ものを大切にすることを学ばせ、さらに、自分の宝物についても考えさせることで、感情豊かな心を育ませようとした。(第1号)	10頁～11頁
Lesson 5	選択科目についての二人の高校生の会話を通して、自分の意見を主張しつつも、他者の意見も尊重する姿勢を学	22頁

	ばせようとした。(第2号)	
Lesson 11	ボランティア活動をテーマとする活動をさせることで、公共心および主体的な態度を養おうとした。(第3号)	59頁～63頁
Lesson 12	和食の調理方法やメニュー、さらには海外の留学生が自国の料理を紹介する様子を通して、それぞれの国で愛される食べものを世界に発信することで、幅広い知識を身につけさせ、積極的に国際交流を行おうとする態度を身につけさせようとした。(第2号、第5号)	65頁～69頁
Lesson 13	留学したい国について考えて文章を書くという活動を通して、我が国だけでなく他国の美点にも目を向けて尊重し、健全な国際人としての態度を身につける契機を与えようとした。(第5号)	71頁～75頁
Lesson 14	ゴミ問題に関する活動をさせることで、自然や環境への意識を高め、環境保全のための行動の大切さを学ばせようとした。(第4号)	77頁～81頁
Lesson 15	食についての意見文を読ませ、さらに、ファーストフードの是非についても考えさせることで、食品についての意識を高め、健やかな身体を養うきっかけを作ろうとした。(第1号)	83頁～87頁
Lesson 16	『モモ』の紹介文を読ませることで、現代社会の人々が抱える時間に対する価値観を再考させる契機を与えようとした。また、もしモモと会うことができたらどうするかということを仮定する場面を見せることで、創造力を養おうとした。(第2号)	89頁～93頁
Lesson 17	電車で席に座れないでいるお年寄りに対する行動を考えさせ、実際に席を譲ろうとする高校生のスキットを演じさせることと、お年寄りを助けることで時間に遅れてきた高校生を誉めるスキットを演じさせることで、道徳心を培おうとした。(第1号)	98頁～102頁
Lesson 18	自分の住む町の概要や歴史を紹介するプレゼンテーションを行わせることで、改めて自分の育った地域に目を向けさせ、郷土を愛する心を育もうとした。(第5号)	104頁～107頁

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

上記の趣旨を踏まえ、次のような点にも留意した。

- ①全体の構成としては、Lesson 1～Lesson 4は基本的な内容を扱いながら高校の学習に慣らせ、Lesson 5～Lesson 16において高校の学習内容の基礎を固め、続くLesson 17～Lesson 18では発展的な内容を学習する。
- ②各課は、題材内容と言語材料（文法事項・機能）を密接に関連させるように構成し、両面で効果的な学習が可能ないようにした。
- ③Part 3 (Lesson 11～Lesson 16)では、メール、手紙、投書、リーフレット、新聞記事、ブックレビューなどの形式に応じたライティング活動を用意した。
- ④Part 4 (Lesson 17～Lesson 18)では、スキットやプレゼンテーションを作り（書き）、それを演じる（デモンストレーションする）ことで1年間の総括を行い、同時に「英語表現Ⅱ」への橋渡しができるようにした。
- ⑤各課の構成はPartによって次のようにした。
 - Part 1 (Lesson 1～Lesson 4)
 - 1) Warm Up: 課のトピックの内容や関連語を導入するリスニングを行う。
 - 2) Model Dialog: 課の題材内容・言語材料を学習する。
 - 3) Practice: 対話練習・情報収集をした上で、課に関連した内容の文章を書く。
 - 4) Try: 文法を簡単にまとめ、練習をする。
 - Part 2 (Lesson 5～Lesson 10)
 - 1) Word Input: 課のトピックの関連語句を導入する。

- 2) Expression Input: 対話を聞いて内容を理解させる。
- 3) Leading to Model Dialog: 後で学習する Model Dialog の導入となる音声聞いて、その概要を理解させる。
- 4) Model Dialog: 課の題材内容・言語材料を提示する対話文。文法や機能も学べるようになっている。Comprehension では内容理解のチェックをする。
- 5) Speaking Output: 会話を聞きとり、それを元に対話練習、さらにペアでやりとりをする。
- 6) Writing Output: 示された手順に従ってまとめた文章を書く。
- 7) Give It a Shot: 英語を聞いて内容理解の練習をする。
- 8) Grammar Compass: 課の Model Dialog で学習した文法事項を整理しながら、文法を使う練習をする。

○Part 3 (Lesson 11~Lesson 16)

- 1) Word Input: 課のトピックの関連語句を導入する。
- 2) Expression Input: 対話の聞き取りをして、学習するトピックの概要に触れる。
- 3) Speaking Output: Pair Work や Group Work などの活動を通して、与えられた状況での考えを交換する。さらに、スピーチやプレゼンテーションなどを行う場合もある。
- 4) Model Passage: ある型を持った文章を読み、文法や機能を学習し、Comprehension で内容確認をする。
- 5) Writing Output: 指示に従って型を持ったまとめた文章を書く。
- 6) Give It a Shot: 英語を聞いて内容理解の練習をする。
- 7) Grammar Compass: 課の Model Passage で学習した文法事項を整理しながら、文法を使う練習をする。

○Part 4 (Lesson 17~Lesson 18)

- 1) Performing a Skit : 以下の手順でスキットの指導をする。
Warm Up で導入をし、Step 1 でスキットに触れ、Step 2 でさらに発展的な内容を学習しつつ演じる上での技術を学習し、Step 3 でスキットを書いて発表する。
- 2) Making a Presentation: 以下の手順でプレゼンテーションの指導をする。
Warm Up でプレゼンテーションの概要に触れ、Step 1 でサンプルとなる原稿に目を通し、Step 2 と Step 3 で効果的な発表について考え、自分でプレゼンテーションの準備をして発表する。